

ありがとうの合図

広島県 広小学校 4年 相原 潤

ぼくの家近くの道では、毎日数えきれないほどのおじぎを見ることができます。

その道はすごくせまいです。道がせまいのに車もたくさん通るし、大きいバスまで通ります。そして、通学路にもなっているので、人もたくさん歩いています。ぼくは学校への登下校時に、少しこわいなと思うこともあります。

ぼくは、小さいころ、お母さんの運転する車に乗っていて、お母さんが向こうから来る車の運転手さんにおじぎをするところを見て、いつもふしぎに思っていました。知らない人なのにどうしておじぎをしているんだろう。相手の人も笑顔で手をあげたりして、どうしたんだろう、と思っていました。

お母さんに聞いてみると、

「この道はせまいから、車がすれちがうとき、あいている所で待ったり、待ってもらったりしないと通れないんよ。そして、ゆずってもらったから、ありがとうの合図をしているんよ。」

と教えてくれました。

ぼくは、それを聞いてから、今までより注意しておじぎをしている人をよく見てみました。すると、おじぎ以外に、手をあげたり、暗いときにはライトでピカッと合図をしたり、軽くクラクションを鳴らしている人もいました。あるときには、まるでけい察官のようにかっこいい敬礼をしている人がいて、おどろきました。そして、どの人もゆずってもらったことにありがとうという気持ちで、やわらかい顔をしているように感じました。

ぼくは、学校の帰り道に、人がたくさん集まっているところを見ました。ぼくも近くに行ってみると、小さなみぞに車のタイヤがはまっていました。すると、少しの時間にどこからともなく人が集まってきて、少し話をしたあと、みんなで力を合わせて持ち上げて、車を元にもどしました。ぼくは、自分のことじゃないのにこんなに気持ちよく動く人たちを見て、(すごいなあ。ぼくも、こんなふうにも人を助けられるようになりたい)と思いました。

ぼくは、毎日数えきれないほどの思いやりややさしさを見ることのできる、ぼくの家近くの道が大好きです。細くて、不便で、危険ととなりあわせだけど、ほんの少しのゆずり合いの気持ちで、とても気持ちのよいコミュニケーションが取れるということがわかりました。

ぼくはこれから、この道だけでなく、ぼくの進んでいくたくさんの道で、いつでも相手にゆずれるように、思いやりとやさしさを持って行動したいです。また、ゆずってもらえたときには、笑顔でありがとうとおじぎをして合図したいです。